

## ちょっといい話 (No.2)

平成30年度 「クライミングアート」を実践して

国立吉備青少年自然の家

真庭市立美甘小学校4・5年生が、当所で1泊2日の宿泊活動を実施し、1日目の活動で「クライミングウォール」に挑戦しました。指導を行った佐藤泰之企画指導専門職（キャンプネーム：サッティ）から担任の先生へ「体験活動を活かして教科指導を深化させる『クライミングアート』に取り組んでみませんか」と提案があり、そこから児童たちの【クライミングウォール×図工】の「主体的・対話的な深い学び」が展開されました。

学校に帰った4・5年生の児童たちは、図工の時間に「吉備のサッティからの指令が出ました。」と担任が伝えると、作品例に目を輝かせて、5時間にわたり集中して作品づくりに取り組みました。

隣同士お互いの写真を見ながら楽しそうに想像を膨らませ、活発に意見を交わし、一人一人の自由な発想を大切にして描き進めていきました。作品が仕上がると、絵の中に吹き出しでコメントを付けることで、他の学年の友達や家族の方々に見てもらう際に、児童の思いが伝わりやすいように工夫しました。

児童一人ひとりに、「どんな世界に飛び込んだ様子なのか」「工夫したこと」などについて発表させ、友達から良かったところや面白かったところなどを伝えて合いました。野外学習での思い出の一コマを、少し違った角度から残せる機会となり、大満足のまとめができました。

児童たちが言うには、「早くぼくらの絵を、サッティに送ってください!」とのこと。担任の先生から送られた写真で授業の様子を見たサッティは、児童の頑張りにこちらも大満足でした。

